

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2292300502		
法人名	医療法人財団百葉の会		
事業所名	グループホーム花咲み(はなえみ)		
所在地	富士市宇東川西町8番41号		
自己評価作成日	平成30年12月16日	評価結果市町村受理日	平成31年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.katgokensaku.mhlw.go.jp/z/z/index.php?act=on_kounyoku_detail_2016_022_kani=true&amp;ligvsvocd=2292300502">http://www.katgokensaku.mhlw.go.jp/z/z/index.php?act=on_kounyoku_detail_2016_022_kani=true&amp;ligvsvocd=2292300502-</a>
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成30年1月17日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・理念「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」の元、自分や親、大切な人が受けたいと思う介護の提供、寄り添うケアの実現に取り組みサービスの質向上に努めている。お客様の～したいの声を大切に、企画に繋げている。  
 ・初年度にISO9001認証取得、一定の質の確保と顧客満足度向上を目指し運用している。  
 ・湖山グループ・法人として人材育成に力を入れた研修や勉強会の体制がある。  
 ・高原のカフェをイメージとした落ち着いた室内、ゆったりとした空間でお客様にお過ごしいただいている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

開設当初から地域密着型に求められる事柄が速やかに整い安心の体制でしたが、3年の年月を重ねて更にプラスαが膨らみ、安心が安堵へとつながっている事業所です。特に個々の状態や想いを掴んだカンファレンスを経ての個別企画は、企画書ファイルの厚さが2センチにも及ぶ程熱心に取組んでいます。例えば、今まで晩酌していた利用者には「〇〇やって今日は頑張ったので、お疲れ様会しましょうか」と本人のウオonzを拾い開催に至る『花咲み居酒屋』を提供しています。ベランダに七輪を並べ、イカの口、秋刀魚を焼くほか、枝豆や焼き鳥をツマにノンアルコールで愉しむ宴会は、本人の満面の笑顔に結ばれています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ここは、たくさんの笑顔が集まるあなたの居場所」をモットーとしている。朝礼ではグループ理念「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」とこやまケアの月の目標を暗唱しお客様の立場になって考え実践している。	浸透について法人の仕組みは堅固なもの、新たにスタートした事業所のためどれ程度進んでいるのかに疑心暗鬼がありましたが、最近では部署会議に「こやまケアでは～」との言葉が職員から出てきています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	天気の良い日は近隣への散歩などを行っている。日常的な交流までには至っていないが地域の防災訓練の参加、原田地区敬老会へ出席した。宇東川・花咲み合同秋祭りでは地域の方が多くお越しくださり楽しい時間を共に過ごした。	今年も隣りの障害者施設の行事と同日で秋祭りを開き、「投げ餅しますよ」と回覧板を廻すとともに、投げ手は連合会長、町内会長にお願いし、笑いの絶えない1日として地域への貢献を成就させています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域向けの勉強会を年に数回実施している。前回は地域の方に講師となっていたいただき多くの方がお越しくださった。勉強会後にはお茶の時間をもち交流を図った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	原田地区連合会長、町内会長、民生委員、ふれあいバンク所長、ご家族様に参加していただき2ヶ月に一度開催している。運営推進会議では法人内で発表した看取りの取り組みを発表した。また活動をファイルにまとめ、ご覧いただいている。	階下の小規模多機能事業所と合同で、隔月開催ができてはいますが、単体ではなく2つの事業所を一体として参加者がみていることなどから、グループホームについての協議が薄いことが課題です。	小規模多機能事業所の自己評価に総計3回程度費やすとのことですので、グループホームの協議に支障がないよう工夫があることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じて、事業所としての取り組みや運営状況について市職員、包括支援センター職員などにアドバイスを受けている。	行政からは集団指導、運営推進会議等の事業を介して、助言や指導を受けています。また傾聴や踊り、笛といったボランティアは富士市社会福祉協議会からの紹介によって実現しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間を除き玄関、2F入口は施錠していない。身体拘束の研修を年間計画に入れ実施。事業所としても身体拘束ゼロ宣言を行ったが、法人としても身体拘束はしない方針である。法人内富士市のGHが共同して身体拘束をテーマに動画、ポスターの作成を行い職員に啓蒙している。	本年度の法改正については指針作成、身体拘束適正化委員会の設置、会議開催と順次進めており、研修会も併せておこなっています。法人内の事業所で共同制作のポスターは掲示をおこない、次回の部署会議ではDVDも視聴の予定です。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束について委員がポスター、動画を市内GHの代表の委員と共に作成し3か月に一度話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、必要とされる方はいないが職員への研修参加や学ぶ機会が確保できておらず活用はできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入店時には契約書・重要事項説明書について説明を必ず行いご署名、ご捺印をいただいている。 変更等ある場合は、家族会や個々に説明している。ご利用にあたってのリスクも説明、ご同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様アンケートを実施。ご家族様にアンケート結果と改善内容について掲示の他、個別にて郵送している。ご意見箱を置き定期的に確認、ご意見をいただいた際には運営推進会議でも報告をするようにしているが本年度の投書はない。	外部評価における家族アンケートに挙げた苦言については、苦情の勉強会を通じて利用者のことに想いを馳せ、事前に自ら「向上させよう」としていたこととあって、速やかに改善することを決めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人内の担当運営管理2名が毎月運営会議に参加しており、直接GHリーダーの声を聞く機会がある。また必要時には運営管理が直接リーダーと面談をすることもあった。	リーダー主導で「ちょっと話しようか」と個人面談が随時入っている効用なのか、共用空間には安心が満ちていて、新人職員もベテランに混じって過不足ない業務と進言ができていた様子を視認しました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実務評価表の活用と目標管理制度では半期ごとの目標進捗状況確認面談を行い意欲向上につなげている。本年度は非常勤介護職の時給見直しやリーダー手当の支給が始まった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加させ賃向上を目指している。中途入職者には、OJTを取り入れ全職員で育成体制を図っている。実務者研修が法人で開催されているが本年度の受講者はなかった。指導が必要な職員に対しリーダーが再度指導を実施した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加している。市内GHとの交流会がありお客様も職員も楽しい時間を過ごした。法人外の職員と研修の際がありGWを通じて多く話をする機会があった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	独居の小多機のお客様が10月に入居、帰宅願望が強くでることが予測されたが職員の関わりにより「いいとこにこれてよかったよ」との言葉を聞くことができた。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ここまでに至った経緯や苦労話、ご家族様のご心情をお聞きし、要望を取り入れる努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談時に、現段階でどのサービスが適切か見極め対応をしている。事情で入所を急がれる方には法人内外を問わずグループホームや場合によっては有料なども空きを確認し紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごす中で、入居者の得意分野の話をお聞きし、情報共有をしている。お客様に出来る事は職員と一緒にいき、役割となるよう対応している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の面会は多くの様子をお伝えしている。家族会では食事をとりながら楽しい時間を過ごした。お客様とご家族様、ご家族様同士でカラオケも行うなど交流も図れる場となった。面会も多く日頃の様子をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪、外出、外泊はいつでも歓迎し、共に過ごす時間を設けている。ピアノ講師の娘様が開いた発表会に職員と聞きに行き「行ってよかった」との言葉があった。	ユニット入口にある「職員紹介」の写真の中で利用者と笑顔で並んでいるのが微笑ましく、本人の誕生日に居室担当者と「食事に出かけます」と家族に伝えたとこ、家族も共にということに至った例もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り関係性を保つこともあり、お客様に了承をいただいた上で配席を変更することもある。男性のお客様が1名いらっしゃるが居室で横になられている時間が長く、職員も声をかけるが傾聴ボラさんにもお越しいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本年度の終了者は3名。1名は入院、2名は他サービス利用となり移行時には情報をお渡ししたがその後は相談、支援となる機会はなかった。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	趣味やテレビなどを見ての一言から企画につなげて「よかった」「嬉しい」と言って頂けるように努めている。対応に苦慮するお客様もいらっしゃるができる限りここで、の想いでケアにあたっている。	アセスメントシートや聞き取りで掴んだ意向は、「菊が好き」→「菊展に行こう」→「会場で旧知の人に会う」→「本人の自慢」と発語を増やし、また24時間シートを導入してドラックロックを回避した例もあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には暮らしの情報をご家族様にご記入いただきケアに生かすようにしている。定期的にモニタリング・アセスメントを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況や、健康状態をバイタル表にし、申し送りを通して現状把握に努めている。訪問診療時には、主治医に日々の変化、状態を正しく伝えられるように職員が互いに訪問診療時の記入をチェックしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	CMは担当から思いやその方の聞き取りを行い内容に反映、その後ケアカンファレンスを行い、全職員の同意をもって介護計画の原案を作成している。	昨年度「2表のサービス内容が細かく、職員に負担でないか」とした課題は、サービス内容を抜き出し、実施に対して印をいれることで、モニタリングを兼ねた実績表として、生まれ変わっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にて、日々の経過記録等に記録し、職員間で朝夕の申し送りをし、情報共有を行っている。定期的なモニタリングを実施の他、部署会議でもカンファレンスを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医を始め、同法人(湖山リハビリテーション病院、ももはクリニック石坂)と連携を図りニーズに応える努力をしている。主介護者が県外在住の方や必要に応じて他科受診同行に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	菊がお好きな方に担当職員が同行し展覧会に行き大満足で帰ってこられた。傾聴ボランティアが不定期ではあるが来所。お客様の気持ちの安定の1つとなっている。図書館から定期的に貸し出ししてもらい提供しているが活用は少ない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療にて連携を図っている。認知症チームとして看護師、セラピストが同行くださるため多方面からアドバイスをいただけている。職員からの報告からも薬を変更、その後を伝えタイムリーに状態に応じたものとなっている。	月2回訪問診療をおこなう認知症チーム(医師、看護師、PT)に全員が変更しています。診療日は職員配置を厚くして、立ち会う職員と往診シートへの記録係、PTからシーティング等の指導を受ける人と分担しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護が週1回来所、健康管理を行っている。また緊急時には連絡しお客様の安全と職員の安心につながっている。共に食事をとることもあり日常をみていただく機会になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先への訪問で状況把握を行い、病院関係者のSWと情報を共有した。退院時の情報は主治医、訪問看護に報告をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には看取り、重度化した場合の指針を説明、同意いただき他アンケートを実施している。居室を変更し職員がいつも様子観察と声をかけることができるようにした。看取り時にはGH職員全員が自主的に集まりお見送りをした。	開設から3年、看取り実績も2名となりました。新採職員もいるため、リーダーがマンツーマンで教えることも視野に入れていきます。看取りを迎えた利用者が現在1名おり、職員全員で見守りたいとリビングに一番近い居室に移っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルは整備してあるが、定期的な実践訓練は行っていない。嘔吐処理は今年も全員が確実にできるまで繰り返し実施することとした。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接するリライフ宇東川と合同防災訓練を実施した。停電時には法人内職員の応援があったが地域との協力体制は築けていない。	点検、発電機、炊き出し、通報、不審者といった多様なメニューを順次毎月実施するほか、法定訓練の内1回を隣接の有料老人ホームとの合同実施も本年は試みています。	階下へおろすことは全員に体験させて入念なもの、職員別の体験メニューを記録して個々に満遍なく実施することを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	こやまケアを湖山医療福祉グループで取り組んでいる。年2回のISO9001内部監査もこやまケアの視点でも確認することとなり振り返り、評価を受ける機会となっている。	職員一人ひとりの発する言葉には私語がなく、利用者のことに終始していて、会話にも利用者を巻き込む姿勢が見られ、こやまケアの浸透を職員が体現できています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様のペース、発する言葉を大切にし、企画につなげ実施。笑顔が出る関わりを努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事など本人のペースに合わせるよう心がけている。無理強いをすることはないが横になっていることが多い方には不活発にならないよう声掛けをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容にて身だしなみを支援している。お客様によってはご自身で服を選び、また着心地にこだわる方もいらっしゃるに対応している。訪問美容でカットの他パーマ、カラーもされる方もおり好みを本人より伝えている方が多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人にあつた食事形態を検討実施している。お客様には食器拭きなどを手伝っていただいている。希望から個別外出、外食に行っている。	「一番の楽しみ」として職員が毎食腕を振るっており、「職員メニューの日」「おやつレク」の食事行事が、頻繁に実施されています。いつもお世話になっている訪問看護師にも試食を兼ね、味わってもらえています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量はその都度記録し、確保できるよう支援している。栄養士の資格を持つ職員がバランスのよい献立となっているかチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施。歯ブラシセット消毒と、義歯の消毒を行っている。ご家族様よりご希望のある方は訪問歯科を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレでの排泄を基本と考えて個別に合わせ対応している。	なるべく「トイレで」を目指し、布パンツの人が紙パンツへと検討に入っても水際で踏ん張り、「二人介助でも」と職員からも声が上がり、チーム総意で自立に向けた支援をおこなっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行支援・運動から自然な排便となるよう支援している。毎日手作りのヨーグルトを提供し、便秘にならないように努力をしている。排泄状況は訪問診療時に主治医に報告をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上は入浴をさせていただいている。リラックスでき入浴が楽しみとなるように音楽を流したり入浴剤を使い変化をつけたりしている。	重度化しても本人の拒否がなければ2人介助でおこなうため、浴槽ごと動かせる可動式は片麻痺にも対応でき便利です。入浴は1日おきで、必ずラジカセから演歌が流れ、湯に浸かりながら口ずさむ人が大半です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の様子や睡眠時間の把握をし、不眠の翌日などは、日中休息の時間を設けている。無理に寝ていただくことはしていない。ベッドに馴染まない方は布団で休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報、服薬チェック、申し送りにて確認をしている。服薬時には他職員へ確認してもらいミスのないようにしている。薬剤師来所時にも状況を報告、訪問診療時には薬を変えてどうであったかの報告をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	企画を全体や個別にて実施している。帰宅希望の強い方にはご家族に協力いただき毎週ご自宅で過ごす時間を作っていただき大きな楽しみとなっている。お孫様がアスリートの方は毎朝スポーツ新聞を読むことが日課となっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	企画、個別外出などを通し外出し楽しんでいただいている。その日の希望はお客様よりあまりでていないが対応していきたい。事前の申し出がなくてもご家族様との外出は行っていたりしている。	年間計画には初詣、遠足があります。ピアノ教師を娘にもつ人的のために、発表会に職員が付き添ったり、「元気がないなあ」と見てとって牛丼屋に出かけたり、ラーメン屋で餃子と一杯でほろ酔い気分を愉しんだり、個別外出に力を入れています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人として預かり金は廃止となった。お一人の方が自分でお金を持っていたいと希望がありご家族様も了承の上ご自身も持っている方がいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	以前は行っていたがご自分で電話や手紙をする方はいない。ご希望があったり機会があれば支援したい。担当者が毎月ご家族様へ日頃の様子を伝える手紙を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月季節感を感じてもらえるよう装飾したり、提示ボードに作品等を飾っている。室温の調整や採光・換気など気を付けている。チェック表をつくり清掃を実施している。	手洗い洗剤のポンプには使用はじめの日付を入れたり、看取りのために居室交換に協力くださった人が迷わないようにと早速目印を加えたり、各表示も大きく、利用者への配慮を感じる共用空間です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の座席は適宜見直しをしている。席以外でも自由に過ごしていただき、気の合う方同志、ソファで話をしている様子がみられている。気ままに居室で過ごす方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にあるものは、ご本人が以前から使われていた物や自慢の物、写真等が置かれている。仏壇をお持ちになられている方もいる。	本人のこれまでの暮らし方を尊重しており、例えば家宅で暮らしていた頃から床に這うことで移動していた人は、事業所備え付けのベッドにはなじめないため、現在もカーペットを敷いての生活です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室の手すりは可動式でありその方にあった使い方ができるようになっている。ベランダで洗濯物干しや取り込み、畳んでいただいている。トイレがわからない方へ印となるものをつけてあからさまにならないようにしている。		